

# リスキリング

JavaScript 第2回（全3回） / 全7回

## DOM(Document Object Model)

- HTML などの文書情報を表したモデル。
- モデルで表現されている文書の情報を取得、操作する枠組み

## BOM(Browser Object Model)

- ブラウザの情報に関するオブジェクトモデル
- ブラウザの情報を取得、操作する枠組み

## やってみよう！(DOM)

```
<html>
  <body>
    <div id="myid">Hello!</div>
  </body>
  <script type="text/javascript">
    var element = document.getElementById("myid");
    console.log(element.innerText);
    element.innerHTML = '<span style="color:#ff0000;">Good Evening!</span>';
  </script>
</html>
```

## やってみよう！(BOM)

```
<html>
  <body>
    <div id="myid">Hello!</div>
  </body>
  <script type="text/javascript">
    console.log(location.href);
  </script>
</html>
```

# イベント 1

- あるイベントが発生したときに、JavaScript プログラムを起動させることが出来る。
- これをイベントの登録などと表現し、プログラムが起動することを発火などと表現する。

```
<input type="button" value="button" id="myid2" onclick="buttonClick()">  
  
<script type="text/javascript">  
    function buttonClick(){  
        alert('Click');  
    }  
</script>
```

## イベント 2

HTML と JavaScript ファイルは、別ファイルに分けておきたい。

```
function buttonClick(){  
    alert('Click');  
}  
  
let button = document.getElementById('myid2');  
button.addEventListener('click', buttonClick);
```

# ネットワークから情報を取得する 1

<https://open-meteo.com/> を使用して、天気情報を取得してみましょう。

まずはブラウザで以下にアクセスしてみてください。

[https://api.open-meteo.com/v1/forecast?](https://api.open-meteo.com/v1/forecast?latitude=35.6785&longitude=139.6823&hourly=temperature_2m&timezone=Asia%2FTokyo)

[latitude=35.6785&longitude=139.6823&hourly=temperature\\_2m&timezone=Asia%2FTokyo](https://api.open-meteo.com/v1/forecast?latitude=35.6785&longitude=139.6823&hourly=temperature_2m&timezone=Asia%2FTokyo)

文字列がいろいろ表示されると思います。この中には、東京の一週間分の気温の情報が含まれています。

これらの文字列は JSON(JavaScript Object Notation)形式 と呼ばれ、 JavaScript ではよく使われます。

次のページで、 JavaScript でこの情報を取得してみましょう。

## ネットワークから情報を取得する 2

```
const url = 'https://api.open-meteo.com/v1/forecast?latitude=35.6785&longitude=139.6823&hourly=temperature_2m&timezone=Asia%2FTokyo';  
  
fetch(url)  
  .then(data => data.json())  
  .then(json => console.log(json))
```

これで、JSON 形式の情報がコンソールに表示されます。



## ファイルへの保存

```
<a href="#" id="weather" download="weather.json">JSON ダウンロード</a>
```

```
document.getElementById('weather').addEventListener('click', (event) => {  
  // JSON を文字列に治す。  
  const json = JSON.stringify({ a: 1, b: 2, c: 3 }, null, '  ');  
  // 保存する文字列の Blob オブジェクトを作成  
  const blob = new Blob([json], { type: 'application/json' });  
  // a 要素の href 属性に Object URL を セット  
  event.currentTarget.href = window.URL.createObjectURL(blob);  
});
```

# ファイルの読み込み

今書き込んだ JSON ファイルを読み出してみましょう。  
ファイルの読み書きには通常 File API を使用します。

```
<input id="myfile" type="file">
```

```
const f = document.getElementById('myfile');
f.addEventListener('change', evt => {
  const input = evt.target;
  const file = input.files[0];
  const reader = new FileReader();
  reader.onload = () => {
    // 読み出し結果の表示
    console.log(reader.result);
  };
  reader.readAsText(file); // 読み込み開始
});
```

# CSV ファイル

- Excel のような表計算のような構造をもったデータ
- 1 行で一つのデータの塊を表し、各データは記号「**,**」で区切ります。

タイトル	著者	発行年
博士の愛した数式	小川 洋子	2003
円周率 $\pi$ の不思議	堀場 芳数	1989
超幾何関数入門	木村 弘信	2007

タイトル, 著者, 発行年  
博士の愛した数式, 小川 洋子, 2003  
円周率 $\pi$ の不思議, 堀場 芳数, 1989  
超幾何関数入門, 木村 弘信, 2007

# CSV ファイルの読み込み

```
// 配列を定義
let csvArray = [];

// 改行ごとに配列化
let lines = body.split(/\r\n|\n/);

// 1行ごとに処理
for (let i = 0; i < lines.length; ++i) {
    let cells = lines[i].split(",");
    csvArray.push(cells);
}

console.log(csvArray);
```

# 演習

1. ネットワークから CSV ファイルを取得しましょう。
2. 取得した CSV ファイルの情報をもとに、HTML を生成して、画面に表示してみましょう。
3. 生成する HTML は `<ul><li>1つ目</li><li>2つ目</li></ul>` となるようにしましょう。

例：

- 博士の愛した数式 小川 洋子
- 円周率 $\pi$ の不思議 堀場 芳数
- 超幾何関数入門 木村 弘信

# オブジェクト

オブジェクトとは、

(乱暴に言うと) 「データ型」とその「計算方法」の塊です。

データを表す構造とその計算ロジックを「クラス」という塊で表します。

例：分数を表すクラス

```
class Rational {  
    var bunshi;  
    var bunbo;  
}
```

# メソッド

オブジェクトの中で定義されている関数は「メソッド」と呼びます。

```
class Rational {  
    time(rhs) {  
        this.bunshi *= rhs.bunshi;  
        this.bunbo *= rhs.bunbo;  
    }  
}
```

# インスタンス

オブジェクトのデータが入っている本体を「インスタンス」と呼びます。

インスタンスの作成は「コンストラクタ」という特別なメソッドで行います。

コンストラクタを用いて、インスタンスを作成するために、**「new 演算子」**を使います。

```
class Rational {  
    constructor(bunshi, bunbo) {  
        this.bunshi = bunshi;  
        this.bunbo = bunbo;  
    }  
}  
  
var bunsu = new Rational(1, 3);
```



## 静的メソッド

インスタンスと関係のないクラス内のメソッドを「静的メソッド」と呼びます。

```
class Rational {  
  static time(lhs, rhs) {  
    let bunshi = lhs.bunshi * rhs.bunshi;  
    let bonbo = lhs.bunbo * rhs.bunbo;  
    let instance = new Rational(bunshi, bonbo);  
    return instance;  
  }  
}  
  
var bunsu = new Rational(1, 3).time(new Rational(3, 2));
```

## 演習

- 上の分数クラスを利用して、分数同士の割り算メソッドを作成してください。